高松市立みんなの病院
Takamatsu Municipal Hospital

地域医療連携だより 3月号

2023年
第28号

Topics

■ 診療科紹介　外科（一般外科）
■ 血管撮影装置を更新しました
■ 脳死下臓器提供シミュレーションを開催しました
■ 地域医療・患者支援センターからのご案内
・第76回地域医療連携セミナー開催のご案内
・令和５年度　地域医療連携セミナー開催予定

診療科紹介　外科（一般外科）

診療について

当院の一般・消化器外科では月～金曜日に消化器外科専門医が交代で診療に当たっています。腹部疾患を中心に幅広く診療を行い、緊急手術が必要な急性腹症に対しても対応しています。今回は比較的頻度の高い急性腹症に対する当科での取り組みをご紹介させていただきます。

急性腹症について

2015年に日本腹部救急医学会を中心に急性腹症診療ガイドラインが発刊されています。同ガイドラインでは急性腹症とは「発症1週間以内の急性発症で、緊急手術などの迅速な対応が必要な腹部疾患」とされています。頻度が高い疾患として急性虫垂炎、胆石症、腸閉塞、尿路結石、胃炎、消化性潰瘍穿孔、胃腸炎、急性膵炎、憩室炎、産婦人科疾患などが挙げられており、当科でも同様の傾向が見られます。そこで今回は、急性虫垂炎、胆石症、腸閉塞に対する取り組みを紹介させていただきます。

急性虫垂炎に対して

腹部緊急手術を要する疾患の中で最も多い疾患です。近年では治療方針を考慮し単純性虫垂炎と複雑性虫垂炎に分類します。単純性は主にカタル性や蜂窩織炎性と呼ばれていたもののことで48時間以内の手術を基本方針としています。一方、複雑性は膿瘍形成や腹膜炎を伴うものです。これに対して拡大手術の回避や術後合併症の軽減目的でInterval　Appendectomyを治療の選択として取り入れています。術式は腹腔鏡手術を第一選択として低侵襲、術後合併症の軽減に努めています。

診療科紹介　外科（一般外科）

胆石症に対して

胆石症に起因する急性胆嚢炎例がほとんどを占めています。無症状・軽症状胆石保有者の有症状化率は5～10年で～40％とされ年率1～3％とされています。また保存的に治療したとしても19～36％に再発するとされています。

急性胆嚢炎例に対しては重症度判定を行い、軽症、中等症では早期に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行っています。現在は、ほぼ全例に低侵襲な腹腔鏡下手術（単孔式手術を含む）を行っており、術後の早期回復、退院が可能となりました。

腸閉塞に対して

特に緊急性の高い腸閉塞は血流障害を伴う絞扼性腸閉塞です。腸閉塞全体の約10％を占めています。発症初期は特異的所見に乏しく診断が遅れることがありますが、鎮痛剤不応性や手術歴のない腸閉塞は要注意と考えます。CT検査での診断が有用で、経過観察できないと判断すれば、腹腔鏡下に観察したうえで病態に応じた適切な術式を選択しています。

実績

過去2年間の手術症例数は以下のとおりです。

	外傷	虫垂炎（小児例）	胆道（胆石症）	胃・十二指腸潰瘍（腹腔鏡）	胃癌（腹腔鏡）	イレウス	肝・脾（肝癌）	膵（膵癌）	結腸・直腸癌（腹腔鏡）	その他の腸	肛門	後腹膜その他	急性腹膜炎	ヘルニア
R2	0	37	76 (71)	3 (3)	27 (27)	8	24 (22)	1 (1)	39 (38)	23	8	42	22	82
R3	1	33	70 (66)	3 (3)	24 (24)	24	14 (10)	1 (1)	50 (43)	31	4	24	17	85

外来担当表

	月	火	水	木	金
午前	和田　大助	篠原　永光	福田　洋	尾形　頼彦	居村　暁
午後	中川　靖士	篠原　永光	四方　祐子	尾形　頼彦	居村　暁

最後に

急性腹症においても80歳代後半～90歳代の超高齢者の割合が年々増加してきています。当院では各種診療科および看護スタッフ、栄養士、理学療法士、薬剤師、地域連携スタッフなど多職種と連携して治療を行っています。

（文責　篠原　永光）